

【指導上のワンポイントアドバイス】

ステップ5-49

☞ 動作を表す言葉については、動作化や、自身の生活場面と時刻をつなげて表現する活動を取り入れ、理解を促す。また、似ているひらがなとカタカナ（「か」と「カ」）を取り上げながら、カタカナの読み書きの習得を図る。

	サバイバル日本語(会話表現) 10分	文字・語彙 15分	算数につながる日本語 15分
--	-----------------------	--------------	-------------------

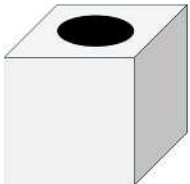
目 標	「起きる」「寝る」という動作を表す言葉を理解している。	カタカナ「ア行」のつく言葉を読んだり書いたりしている。	「〇時」、「〇時半」の時刻を読んでいる。
-----	-----------------------------	-----------------------------	----------------------

学習内容	・(動) 起きる／寝る	・カタカナ「ア行」	・とけい③
------	-------------	-----------	-------

主な流れ	<p>①絵カードを見て、動作の言い方を練習する。 ※絵カードを見て、言葉で表現した後、実際に動作を加える。</p> <p>②ひらがなで「おきる」「ねる」などが書かれたカードが入っている箱の中から、1枚言葉カードを引いた後、そのカードに書かれた言葉を読んだり、動作したりする。</p> <p>③相手がカードを引いて、その動作を行い、児童は、その動作を見て、何の動作かを当てる。</p>	<p>①「ア・イ・ウ・エ・オ」の学習プリントを使って読み書きの練習をする。 ※既習のひらがなの文字と音声を想起しながら取り組む。</p> <p>②「ア・イ・ウ・エ・オ」を含む言葉を表すイラストをカードに描く。また、イラストの下にカタカナで、そのイラストが表している言葉を書く。 ※作成したカードは、かるたゲームに活用することができる。</p>	<p>①時刻の読み方「〇時半」を練習する。その際、4時（よじ）、7時（しちじ）、9時（くじ）の言い方は、数字の言い方と比較しながら、繰り返し練習する。</p> <p>②時計または時計のイラストや絵カードを見て時刻を言う。</p> <p>③「わたしは、〇時（〇時半）に起きる（寝る）。」と言いながら、起きる時刻、寝る時刻について、1日のスケジュール表に書き込む。</p>
------	---	---	--

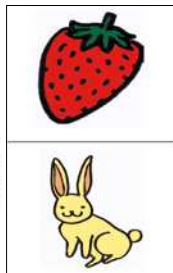
使用教材例等

・絵カードを入れる箱



・「ことばとおぼえる ひらがなワーク絵カード」(愛知教育大学 外国人児童生徒支援リソースルーム)

https://resource-room.nihongo.aichi-edu.ac.jp/wp-content/uploads/2021/01/kotoba_card.pdf



・「日本語指導ハンドブック」(東京都教育委員会HP)デジタルブック 日本語指導事例集ワークシート pp.36-38

<https://www.spt.metro.tokyo.lg.jp/kyoiku/static/dbook/japanese/#page=1>



・「みえこさんのにほんご」((公財)三重県国際交流財団作成)動詞絵カード100

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000055236.pdf>



・「みえこさんのにほんご」((公財)三重県国際交流財団作成)れんしゅうちょう

<https://www.pref.mie.lg.jp/com/content/001028288.pdf>



・デジタル時計
・1日のスケジュール表
・カタカナワークシート(ひらがなカタカナ学習アプリケーション「がんばってかな」国際大学)

ステップ5-60

【DLAとは】

子どもたちの言語能力を把握すると同時に、どのような学習支援が必要であるかを検討する際の参考となるよう、文部科学省によって作成された対話型アセスメントである。「話す」「読む」「書く」「聴く」の4つの言語技能の評価を行う前に、導入として<はじめの一步>を行う。

目的	①今後の伸びの予測や、指導方針を検討する際の参考とするため、児童生徒の言語能力（本時は語彙力チェックに限定）、言語環境、生活環境を把握する。 ②テストの実施過程そのものも、学びの機会として捉える。
----	---

学習内容	DLA<はじめの一步> 「導入会話」「語彙力チェック」 20分	文字・語彙の復習 20分
------	---------------------------------------	-----------------

主な実施の流れ	<p>実践ガイドに従って、DLA<はじめの一步>の「導入会話」「語彙力チェック」を行う。 ※児童の実態に応じて、この後に「話す（基礎タスク）」に進むことができる。</p> <p>【実施の際の留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めに、分からないときは「分かりません。」と言ってよいことを伝える。 ・自然な速さで会話を進める。間違えても、遮ったり、否定したり、訂正したりしない。 ・質問は、3回までは繰り返してよい。 ・チェックや診断は、児童の前で行わない。 	<p>既習の文字・語彙の確認を行う。</p> <p>【語彙の確認】</p> <p>活動1 教師の言った言葉を聞いて、机の上に並べられた絵カードを取る。</p> <p>【文字の確認】</p> <p>活動1 ひらがなで書いたカードの文字を読む。 活動2 教師が提示した文字カードを見て、それが指す絵カードを取る。 活動3 教師が言った言葉を聞いたり、絵カードを見たりして、物の名前などをひらがなで書く。</p>
---------	---	---

DLAに関する留意事項等

【事前準備】手順を事前に読んでおく。

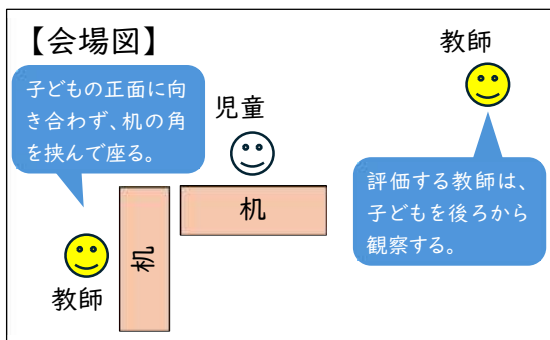
- 「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメントDLA」
- ・第2章1. DLA<はじめの一步> pp.11-13
- ・第2章2. DLA<聞く・話す> pp.19-23

【当日準備】

- 「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメントDLA」
- ・実践ガイド(導入会話) p.14
- ・実践ガイド(語彙力チェック) p.15
- ・評価メモ(導入会話) p.16
- ・評価メモ(語彙力チェック) p.17
- ・語彙カード(番号順に) pp.236-242
- ・「録音機器」
- ・「評価者用のメモ用紙」

【実施者】

進行担当とシートへのチェック担当 2名(1名の場合は、児童生徒の前でチェックせず、事後に録画(録音)したもので診断する。)



【ダウンロード】文部科学省 HP より

「外国人児童生徒のためのことばの力のアセスメント」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm



「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のための対話型アセスメントDLA」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413_00003.html

【DLA実施に係る関連動画】youtube.com より

【東京外国語大学】01『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA』概要

<https://www.youtube.com/watch?v=f8QChp2FdLM>

【東京外国語大学】02『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA』はじめの一步

<https://www.youtube.com/watch?v=0fQAv2YWSCU>

